

ル環境が母体や児に及ぼす影響と産後うつ、さらにやせや肥満、更年期障害などすべてのライフステージにわたって対応すべき疾患・病態が存在しますし、症例数も増えています。つまり、心身医学は女性への対応に欠かすことのできない知識です。

しかし、いざ女性心身医学を学ぼうとすると心療内科の研修自体もややもすれば難しいところへ加えて、ホルモンや女性特有の疾患・病態の知識も必要であり、分かりやすい教科書が望まれてきました。女性における心身医学を専門に扱う学会は日本女性心身医学会です。本学会でも2006年に『TEXT BOOK 女性心身医学』を、さらに、これを改訂した『最新 女性心身医学』を2015年に発刊しており、時代の変化に伴い、そろそろ改訂が必要ですね……という話をしていたところですが、すっかり先を越されてしまいました。

本書を開いていただくと分かる通り、講演の記録集と郷久先生を中心としたグループの臨床統計をメインに7つのセクションに分かれており、いわゆる教科書とは様相が異なります。決して網羅的ではありませんが、実際に読み進めていくと、重要な疾患・病態について、日本人女性における執筆者の先生方の膨大なデータが分かりやすくまとまっており、研究に裏打ちされた言葉には重みがあります。この分野によくあるナラティブな結果だけではなく、心身医学になじみのない先生方にもスッと内容が入ってきますし、読み終えると女性心身医学の何たるかが理解できる教科書になっていると感じました。

監修者のお一人である郷久先生は本学会の古くからの重鎮のお一人であり、日本の女性心身医学の歴史と特徴を熟知された先生です。加えて、日本における婦人科の泰斗であられる札幌医科大学産婦人科の齋藤教授、また、日本で初めて精神身体医学研究施設を設置し、後の心療内科学教室につながった九州大学の心療内科教授として活躍され、日本の心身医学を牽引されてきた久保先生というお二人の大家にも監修された本書は正に最強の女性心身医学の教科書です。

この『新・女性の心身医学』は女性心身医学にかかわる各診療科の医師のみならず、医学生、助産師さんや看護師さんなどのメディカルスタッフの皆さんにも役立つ一冊と言えます。ぜひ一度手に取って女性心身医学を感じていただきたいと思います。

新・女性の心身医学

齋藤 豪，久保千春，郷久鉦二監修

金剛出版，A5判500頁，8,800円，2024年9月刊

(日本女性心身医学会理事長／
つくばみらい遠藤レディースクリニック顧問)

高松 潔

最強の女性心身医学の教科書，現る！

こころと身体には関連があることはよくご存じだと思います。これを心身相関と言いますが、この考え方に基づき、患者さんを身体面からだけでなく、心理面や社会面も含めて全人的なケアから、QOLの向上を目指すことが心身医学の考え方です。特に女性においては、ホルモン変動があることや女性を取り巻く環境へのストレスが大きいことなど種々の要因から、いわゆる心身症が多いことが知られています。例えば、月経に関連した無月経，月経困難症，月経前症候群（PMS），妊娠中のストレスやメンタ